

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京田辺ロジスティクスセンター	階数	地上3F
建設地	京都府京田辺市甘南備台二丁目3	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(認定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2022年6月10日
敷地面積	12,480 m <sup>2</sup>	作成者	西松建設㈱ 仁尾
建築面積	6,847 m <sup>2</sup>	確認日	2022年6月10日
延床面積	19,948 m <sup>2</sup>	確認者	西松建設㈱ 仁尾



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p><b>BEE = 1.5</b> ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p><b>標準計算</b></p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>46</td> </tr> </table> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	92	②建築物の取組み	46	③上記+②以外の	46	④上記+	46	
①参照値	92									
②建築物の取組み	46									
③上記+②以外の	46									
④上記+	46									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <b>Qのスコア = 2.9</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 3.2</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 3.4</b></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 2.4</b></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <b>LRのスコア = 3.6</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 3.9</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 3.7</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 3.3</b></p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b> 将来的な壁面後退線(南側敷地境界より3m)に現時点において対応し、建物周囲には中高木を植樹することで、建築物のボリュームを抑え、計画地周辺への閉塞感を低減するよう配慮した。 室内環境においては階高が高く、床荷重のゆとりも確保し、多様な用途に対応可能な空間としている。</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> 各仕上材料にはF★★★★を使用することで、室内空気環境に配慮した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 天井高さを極力高く確保することで、圧迫感のない空間づくりに配慮した。 また事務室、管理室にはOAフロアを採用することで、フレキシブルなレイアウト空間を計画した。</p>	<p><b>その他</b> 特になし</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 全館LED照明を採用することで省エネルギー性に配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器等の衛生器具、リサイクル材を採用し、資源の再利用に配慮した。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 将来的な壁面後退線(南側敷地境界より3m)に現時点において対応し、建物周囲には中高木を植樹することで、建築物のボリュームを抑え、計画地周辺への閉塞感を低減するよう配慮した。</p>
		<p><b>LR3 敷地外環境</b> 可能な限り緑地を確保し、温熱環境に配慮した。 十分な駐車台数を確保し、計画地周辺の交通負荷抑制に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される